

2017年7月13日

7月定例所長会見における発電所長挨拶内容

福島第一原子力発電所の事故から6年4ヶ月が経過いたしました。今なお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、あらためまして心よりお詫び申し上げます。

また、今月16日で、新潟県中越沖地震から10年が経過いたします。地震によりお亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

本日、私からは、4点お話しをさせていただきます。

まず始めに、新たな経営体制についてです。

当社は、6月23日の株主総会および総会後の取締役会を経て、会長の川村、社長の小早川をはじめとする新たな経営体制となりました。新潟県内においても、新潟本社の新代表に橘田が就任したところです。

今後、新体制のもと、新々総合特別事業計画に基づき取り組んでまいります。当発電所では、福島事故を踏まえた安全対策と緊急時の対応力強化、それらの取り組みを地域の皆さまへしっかりとお伝えしていくことを、誠意を持ってやり続けてまいります。

次に、原子力規制委員会による適合性審査の対応状況についてです。

6月16日に、これまでの審査内容を踏まえ、当発電所6号機、7号機の原子炉設置変更許可申請の補正書を提出しました。

補正書については、その後の審査会合においてご意見をいただいておりますので、現在、反映する作業を進めているところです。

今後も引き続き、審査に真摯に対応してまいります。

次に、国際原子力機関<IAEA>の運転安全評価チーム、いわゆる OSART によるフォローアップ調査についてです。

今月 31 日から来月 4 日にかけて、当発電所において IAEA の OSART によるフォローアップ調査を受けます。

OSART の調査とは、発電所の運転管理状況や運営上の安全性などを、IAEA の安全基準や国際的な知見、経験に基づき、客観的な観点で評価していただくものです。

今回のフォローアップ調査では、一昨年 7 月に実施された本調査における推奨事項や提案事項について、対策の進捗状況を確認いただきます。

当発電所としては、このような第三者機関からの評価をしっかりと受けながら、安全レベルを継続的に高め、地域の皆さまから信頼いただける発電所となるよう取り組んでまいり所存です。

最後に、「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」による発電所のご視察についてです。

7 月 22 日に地域の会の皆さまが発電所をご視察されます。

地域の会では、この 5 月に委員の方は約半数の 9 名が交替されておりますので、今回は、原子力発電の安全確保に関する基本的な設備や震災以降に配備しました安全対策設備等をご覧いただきたいと考えております。

発電所を直接ご覧いただく機会を通じて、発電所の安全対策や現在の状況について、地域の皆さまにしっかりとご説明し、ご質問に丁寧に応えてまいりたいと考えております。

本日、私からは以上です。

以上